

学校名	<p>山形市立村木沢小学校  山形市大字村木沢6045番地  TEL643-2240 FAX645-8606</p>	校長	白鳥 樹一郎
		研究主任	海谷 美喜子
研究主題	<p style="text-align: center;"><b>豊かに学び つたえ合う子ども（2年次）</b></p>		
研究主題設定の理由	<p>本校では、「主体的に関わる力を持つ、心豊かなたくましい子ども」を教育目標とし、「よく考え進んで学ぶ子ども」「ねばり強くたくましい子ども」「生き生きと自分を表現する子ども」「思いやりの心を持ち、ともに助け合う子ども」の育成をめざしている。</p> <p>本校の子ども達は、心優しく素直である。学校という限られた場の中では、与えられた課題に熱心に取り組むことができる。しかし、広く地域や社会に目を向けて自ら問いを持ったり、それを解決するために自ら行動することのできる子どもは多いとは言えなかった。</p> <p>そこで、13年度まで「主体的な問題解決能力」、「自分たちを取り巻く人々や環境とともに生きる力」を重点課題とし、全学年、生活科や総合的な学習に地域素材を取り入れた授業による実践と、縦割り班を基本とした「桜ヶ丘タイム」の活動に取り組んできた。その結果、子ども達に「自ら課題に立ち向かおうとする姿」「生き生きと調べ学習に取り組む姿」「調べたことを多くの人に伝えようとする姿」が見られるようになってきた。しかし、人や社会・自然との関わりが広がっていくにしたがって、表現力や発表力などの自己表出力の不足により、自分の学びを確かなものにする事ができないでいる子どもの姿も見られるようになった。</p> <p>その反省を受け、14年度からは、人や社会・自然に働きかける体験活動を大切にし、主体的に学ぶ力を高めていくとともに、どのような場面でも自分の考えや思いを、言葉や表情、行動で豊かに表現する力を身に付けさせたいと考え、本主題『豊かに学び伝え合う力』を設定し、授業改善や縦割り班を中心とした交流活動の工夫に取り組んできた。</p> <p>特に昨年度は、言語による表現力に視点をあて、教師一人ひとりが子どもの実態を分析し、子どもに付けたい力を明らかにしながら仮説を立て、授業で検証するという実践を積み重ねてきた。表現意欲を持たせるための学習展開の工夫や相手を意識して話すことに重点を置いた授業など、子どもに目を向けた指導を心がけた結果、子どもの中に「発表したい、伝えたい」という気持ちや自分の思いを自分の言葉で相手に伝えようとする意識の高まりを感じることができた。それと同時に、伝えたい内容を効果的に表現する方法を身に付けさせていくことや、話すこと・聞くことを併せた指導の展開を考えていく必要があることなど、新たな課題も見えてきた。</p> <p>そこで、今年度も本主題を設定し、教育活動全体を通して基礎・基本の確実な定着を図りながら、「自分の思いを豊かに表現できる子ども」を育てるための学習指導や、交流の場の設定について考えていくことにした。</p>		
研究目標	<p>「豊かに学び つたえ合う子ども」を育成するための教育課程・学習指導のあり方を探る。</p>		

研究の仮説	<p>(1) 子どもの良いところや持っている力を十分に把握し、興味関心を大切に教材を構成して提示し、課題を追求し解決していく場を設定することにより、学び方を身に付け主体的に学習する子どもが育つであろう。</p> <p>(2) 教育活動全体を通して、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、音声言語の基礎的技能、基本的能力を身に付けさせることで、進んで表現し人と関わろうとする子どもが育つであろう。</p> <p>(3) 「読む、書く、聞く、話す、歌う、動く、描く」など自分の思いや考えを自由に伸び伸びと表し交流する場や、互いの良さを認め合う場を数多く設定することで自信を持ち、豊かに学び伝え合おうとする子どもが育つであろう。</p>										
研究の方法と内容	<p>研究の内容</p> <p>(1) 基礎・基本を確実に身に付けさせるための指導の工夫。</p> <p>(2) 自ら学ぶ子ども像にせまるための課題解決型学習の授業計画。</p> <p>(3) 発表したくなるような教材提示や単元構成を考えていく。</p> <p>(4) 学年に応じた音声言語の基本的技能、基礎的能力を明らかにし、確実に身に付けさせていく。</p> <p>(5) 発表の場、交流の場の設定を工夫する。(児童会活動、学年部での発表会、学校行事等)</p> <p>研究の方法</p> <p>(1) 各自が個人の課題を明らかにし、研究の内容と関連した具体的な仮説を立てて研究に取り組む。</p> <p>(2) 学年または学年部で、教材を開発したり授業研究をしたりしながら、研究を進めていく。</p> <p>(3) 音声言語の基礎基本を意識した学習環境を作る。</p> <p>(4) 研究授業や事後研究会、校内研修会に講師を招聘し、理論研究をしていく。</p> <p>(5) 実践の成果を、研究集録にまとめ次年度へつなげる。</p>										
研究の計画	<table border="0"> <tr> <td>4月 校内研究方向性決定</td> <td>10月 授業実践 1年国語・2年図工・5年国語 (第三回「桜ヶ丘タイム」・宿泊学習)</td> </tr> <tr> <td>5月 校内研究計画協議 (第一回「桜ヶ丘タイム」)</td> <td>11月 &lt;130周年記念式典&gt;</td> </tr> <tr> <td>6月(第二回「桜ヶ丘タイム」)</td> <td>12・1月 研究のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8月 「表現力」についての研修会 (全校いもほり)</td> <td>2月 校内研究反省会</td> </tr> <tr> <td>9月 授業実践 3年総合・4年音楽・6年国語</td> <td>3月 研究紀要発行 ( )は、全校総合計画</td> </tr> </table>	4月 校内研究方向性決定	10月 授業実践 1年国語・2年図工・5年国語 (第三回「桜ヶ丘タイム」・宿泊学習)	5月 校内研究計画協議 (第一回「桜ヶ丘タイム」)	11月 <130周年記念式典>	6月(第二回「桜ヶ丘タイム」)	12・1月 研究のまとめ	8月 「表現力」についての研修会 (全校いもほり)	2月 校内研究反省会	9月 授業実践 3年総合・4年音楽・6年国語	3月 研究紀要発行 ( )は、全校総合計画
4月 校内研究方向性決定	10月 授業実践 1年国語・2年図工・5年国語 (第三回「桜ヶ丘タイム」・宿泊学習)										
5月 校内研究計画協議 (第一回「桜ヶ丘タイム」)	11月 <130周年記念式典>										
6月(第二回「桜ヶ丘タイム」)	12・1月 研究のまとめ										
8月 「表現力」についての研修会 (全校いもほり)	2月 校内研究反省会										
9月 授業実践 3年総合・4年音楽・6年国語	3月 研究紀要発行 ( )は、全校総合計画										